



慶應義塾大学ビジネス・スクール

簿記一巡の手続

5

1 簿記一巡の手續

簿記の手續の詳しいことは、次回以降の講義で詳述するが、できるだけ早い段階で全体像をつかめるように、非常にシンプルな例で一通りの手続きを示しておきたい。ここでは、簿記一巡の手続きの雰囲気がわかれればいいので、細部にこだわらず、ザッと目を通してほしい。

10

期中には、企業のビジネス活動のうち、会計上の記録が必要とされるものを選び、複式記入のルールにしたがって、データ入力する。この複式記入のルールにしたがったデータ入力が仕訳(journal entry)である。仕訳が終わったら、そのデータにもとづいて、総勘定元帳と呼ばれるデータベースへ書き写す。仕訳データを総勘定元帳に書き写すことを転記(posting)という。期末には、総勘定元帳のデータをもとに財務諸表を作成することになる。

15

具体的な例を見てみよう。次の日吉運送店の取引を複式簿記で記録するものとする。

1. 4月1日、資本金100百万円の現金出資を受けて、日吉運送店株式会社を設立した。
2. 6月12日、綱島銀行から50百万円の現金融資を受けた。
3. 9月1日、トラックを賃借し、賃借料5百万円を現金で支払った。
4. 9月1日、賃借したトラックに保険をかけ、保険料1百万円を現金で支払った。
5. 2月15日、元住吉工務店からの依頼で資材を運搬し、代金7百万円を現金で受け取った。

20

この例で単位が「百万円」となっているのは、会計の世界では、数字は3桁ずつ位取りすることになっているからである。「100百万円」は「1億円」を意味する。なぜ、こんなわかりにくいくらいことをするかというと、英語が、千(thousand)、百万(million)、十億(billion)と位取りするため、それにあわせてあるのである。日本語では、万、億、兆、京、垓と4桁ずつ位取りするので、こ

本ケースは、慶應義塾大学ビジネス・スクール准教授太田康広が複式簿記の演習問題として作成した。ケース中の企業は架空のものである。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 太田康広 (2009年1月作成)